

## トピックス…②

## 本会など17団体が

## TPP参加断固反対で緊急集会

全中、本会など農林水産関係17団体は11月10日、東京・千代田区の日比谷野外音楽堂でTPP（環太平洋連携協定）交渉参加に断固反対する緊急全国集会を開催した。全国の農林漁業者ら3,000人が参加し、交渉参加断固反対を求める特別決議を採択、都内をデモ行進した。

## ● TPP断固阻止に頑張る・茂木全中会長

主催者挨拶した茂木守全中会長は「TPP交渉への参加は、農山漁村の現場実態を踏まえれば絶対に認められない。TPPとEPA（経済連携協定）がどう違うのか、理解していない国民が大多数だ。APEC（アジア太平洋経済協力会議）で『協議開始』を表明するというのは乱暴な政権と言わざるを得ない。TPP断固阻止に頑張る」と述べた。

情勢報告した富士重夫全中専務は「TPPは、これまでのWTO交渉での日本の姿勢を大きく覆すことになり、大問題だ。10%の例外措置を守るため、10年間の粘り強いWTO交渉を一瞬で失ってしまう。農業は、国によって国土条件が全く異なり、平等にする意味で関税設定が認められている。『国を開く』などの表現で、関税ゼロが良いことのように言われるのは誤りだ。TPP参加、不参加はこれからの判断になるが、今が正念場だ。われわれの考え方を国に伝えるため関係団体は力強い連帯の輪を広げよう」と訴えた。

この後、水産団体、地方議会、地方経済界、消費者団体代表の4人が決意表明。それぞれTPP交渉参加に強く反対する姿勢を明確にした。

## ● 多数の与野党国会議員出席、TPP反対に理解

集会には与野党の国会議員が多数出席した。民主党の郡司彰参議院議員は、自らが副会長を務める「TPPを慎重に考える会」の活動などを紹介した上で、「与党の中にも農業や地域社会を壊すわけにはいかないと頑張っている人が大勢いる」と述べたが、会場からは「言い訳するな」などのヤジが飛び交った。国民新党代表の亀井静香衆議院議員は「TPP参加は絶対に反対だ。マスコミは賛成だと煽っているが、（事の

重大さを）よく分かっていない。農協はJAと横文字になってから大人しくなったのではないか。やる時はやらねばならない。（日本農業の将来は）楽観できないと肝に銘じ、決意が伝わっていくような運動をするべきだ」とエールをおくった。

一方、自民党副総裁の大島理森衆議院議員は「菅直人内閣の経済、外交の無策のために農業が犠牲になってはいけない。土や環境や日本の文化を守るのは農であり、林であり、山だ。信念のないTPP参加は断じて許さない」と述べ、大きな拍手を浴びた。

このほか、公明、共産、社民の各党議員からも、TPP反対に同調する発言が相次いだ。

3,000人の参加者は「TPP交渉参加に断固反対し、大きな国民運動を展開する」との特別決議を満場一致で採択した後、「ガンパロー」を三唱。集会後には、外務省、農水省付近など都内をデモ行進し、「農水省頑張れ」「外務省、経産省ふざけるな」とシュプレヒコールを繰り返し、氣勢を上げた。

